

## R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学Ⅲ(普)	単位数	3	担当者	宮崎
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

教科書	新編数学Ⅲ（数研出版）
問題集	3 TRIAL 数学Ⅲ（数研出版）

### 2. 科目の目標

極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察する力を育てる。

### 3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	関数 分数関数、無理関数 逆関数、合成関数	53	既習 範囲
	5月			
	6月			
	7月	極限 数列の極限 関数の極限		
	8月			
9月				
後期	10月	微分法 導関数 いろいろな関数の導関数 導関数の応用 いろいろな応用	52	既習 範囲
	11月			
	12月			
	1月	積分法 不定積分 定積分 積分法の応用		
	2月			
	3月			

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科書を主として学習を進める。</li> <li>(2) 確認テストを行い評価点を与える。</li> <li>(3) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。</li> </ul> |
|---|

## R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学 A（森・イ）	単位数	2	担当者	橋本
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

教科書	高校数学 A（実教出版）
問題集	ステップノート 数学 A（実教出版）

### 2. 科目の目標

場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

### 3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	場合の数と確率	35	既習範囲
	5月	場合の数		
	6月	確率		
	7月			
	8月	図形の性質		
	9月	平面図形		
後 期	10月	図形の性質	35	既習範囲
	11月	空間図形		
	12月	数学と人間の活動		
		数と人間		
	1月	図形と人間		
	2月			
	3月			

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

教科書をしっかり読み、基本事項を理解するとともに、反復練習することにより計算力を身につけることが、学力の定着につながる。

## R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学研究 I（普）	単位数	3	担当者	橋本
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

問題集 リンク数学演習 I A受験編 a+b+c（数研出版）  
 ※教科書は使用しない

### 2. 科目の目標

幾何、解析、代数、確率統計の各分野において、既習内容を体系的に関連づけ、事象を数学的に考察し、処理する能力の更なる伸長を図る。

### 3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	代数的分野	数と式（数 I）、方程式・不等式（数 I）	53	既習範囲
	5月				
	6月	解析的分野	2次関数（数 I）		
	7月				
	8月				
9月	幾何的分野①	図形と計量（数 I）			
後期	10月	幾何的分野②	図形の性質（数 A）	52	既習範囲
	11月	確率統計	データの分析（数 I）、場合の数・確率（数 A）		
	12月				
	1月				
	2月	総合実習・研究	各人が様々な問題に取り組み、課題を設定し、研究内容をまとめる。		
3月					

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- (1) 問題集・プリント等を用いて学習を進める。
- (2) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。

## R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学研究Ⅲ（普）	単位数	4	担当者	玉谷
---	----	-------	-------------	-----	---	-----	----

### 1, 教科書・副教材

シニア数学演習ⅠⅡABC受験編（数研出版）  
 ※教科書は使用しない

### 2, 科目の目標

幾何、解析、代数の各分野において、既習内容を体系的に関連づけ、事象を数学的に考察し、処理する能力の更なる伸長を図る。

### 3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	代数的分野	数と式（数Ⅰ）、方程式・不等式（数Ⅰ、数Ⅱ）、	70	既習範囲
	5月				
	6月	解析的分野	2次関数（数Ⅰ）		
	7月				
8月	幾何的分野	図形と計量（数Ⅰ）			
9月					
後期	10月	代数的分野	式と証明（数Ⅱ）	70	既習範囲
	11月				
	12月	幾何的分野	図形と方程式（数Ⅱ）		
	1月				
	2月	解析的分野	指数関数・対数関数・三角関数・微分法・積分法（数Ⅱ）		
3月					

### 4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5, 学習にあたっての注意とアドバイス

- (1) 問題集・プリント等を用いて学習を進める。
- (2) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。

## R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学研究Ⅱ（普）	単位数	3	担当者	山越
---	----	-------	-------------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

ベーシックスタイル数学演習ⅠⅡABC受験編（数研出版）  
 ※教科書は使用しない

### 2. 科目の目標

幾何、解析、代数、確率統計の各分野において、既習内容を体系的に関連づけ、事象を数学的に考察し、処理する能力の更なる伸長を図る。

### 3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	代数的分野	数と式（数Ⅰ）、方程式・不等式（数Ⅰ、数Ⅱ）、式と証明（数Ⅱ）	53	既習範囲
	5月				
	6月				
	7月	解析的分野	2次関数（数Ⅰ）、指数関数・対数関数・三角関数・微分法・積分法（数Ⅱ）		
	8月				
9月					
後期	10月	幾何的分野	図形と計量（数Ⅰ）、図形の性質（数A）、図形と方程式（数Ⅱ）、ベクトル（数C）	52	既習範囲
	11月				
	12月	確率統計	データの分析（数Ⅰ）、場合の数・確率（数A）、数列（数B）		
	1月				
	2月				
3月	総合実習・研究	各人が様々な問題に取り組み、課題を設定し、研究内容をまとめる。			

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- (1) 問題集・プリント等を用いて学習を進める。
- (2) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。

## R6年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学C(普)	単位数	2	担当者	宮崎、玉谷、山越
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----------

### 1, 教科書・副教材

教科書	新編数学C (数研出版)
問題集	3 TRIAL 数学C (数研出版)

### 2, 科目の目標

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について理解を深める。大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それら性質を統一的・発展的に考察する力を養う。

### 3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 平面上のベクトル ベクトルの演算 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解させる。</li> <li>・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、それらを平面図形の性質などの考察に活用できるようにする。</li> </ul>	70	既習範囲
	5月 空間のベクトル ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用			
	6月 複素数平面 複素数の極形式 ド・モアブルの定理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できるようにする。</li> <li>・複素数平面を考えることにより、複素数の図形的意味を理解しようとする。</li> <li>・極形式により乗法と除法の図形的意味を理解する。</li> <li>・ド・モアブルの定理を利用して複素数のn乗を計算する。</li> </ul>		
	7月 式と曲線 放物線 楕円、双曲線 媒介変数表示と極座標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線の標準形について理解する。</li> <li>・楕円、双曲線の概形や焦点などについて学び、条件から楕円、双曲線の方程式を求める。</li> </ul>		
	8月 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・媒介変数表示された曲線を、媒介変数を消去した式で表す。</li> <li>・直交座標と極座標の関係性について学び、円や直線を極方程式で表す。</li> </ul>		
	9月			
後期	10月			
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

### 4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5, 学習にあたっての注意とアドバイス

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科書を主として学習を進める。</li> <li>(2) 確認テストを行い評価点を与える。</li> <li>(3) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。</li> </ul> |
|---|

## R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	数学・数学特論（普）	単位数	1	担当者	宮崎
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

### 1. 教科書・副教材

シニア数学演習ⅠⅡABC受験編（数研出版）  
※教科書は使用しない

### 2. 科目の目標

幾何，解析，代数，確率統計の各分野において，既習内容の概念や原理・法則を体系的に関連づけ，事象を数学的に考察し，処理する能力の更なる伸長を図る。

### 3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	式の計算、2次関数 三角比 集合、場合の数と確率	式と証明 基本問題の演習を通して、基本的な概念や原理・法則の理解の徹底を図る。	18      既習範囲
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
	9月			
後期	10月	高次方程式 図形と方程式 いろいろな関数 微分と積分 ベクトル 数列	基本問題の演習を通して、基本的な概念や原理・法則の理解の徹底を図る。	17      既習範囲
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			
	3月			

### 4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

### 5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- (1) 問題集を主として学習を進める。
- (2) 確認テストを行い評価点を与える。
- (3) 生徒の進度に応じて内容を変更することがある。